

行政視察報告書

委員会名	安中市議会 経済建設常任委員会														
参加議員	巽 久男、池島 利明、吉岡 完司、壘 次雄、小川 剛														
日 程	令和8年(2026年)5月 19 日(火)～5月21日(木)														
視 察 先	福井県あわら市、福井県大野市、石川県野々市市														
視察内容【1日目】															
視察自治体	福井県あわら市														
視察項目	芦原温泉駅前周辺整備について														
概 要	本市では現在、西毛広域幹線道路とJR信越線が交差する地点への新駅建設を進めているが、新駅構想をより実効性のあるものとするため、北陸新幹線の開業に合わせて駅前整備を進めた芦原温泉駅を視察することとした。 芦原温泉駅では、駅前広場、交流拠点施設、駐車場、周辺道路を一体的に整備し、観光振興と市民利用の両立や回遊性向上といった効果を生み出している。ローカル線と新幹線という違いはあるものの、こうした先進事例を現地で確認することで、新駅に求められる機能配置、交通結節点としての設計、賑わい創出の工夫などを具体的に学ぶことができた。安中市の将来像に適した駅整備の方向性を検討する上で、有益な参考となるものであった。														
説明内容	○あわら市の基本情報 <table><tr><td>人口(R8.4.1 現在)</td><td>25,608 人</td></tr><tr><td>観光入込客数(R6)</td><td>2,129,600 人(対前年増減率 14.0%増) うち、宿泊客数 681,100 人(同10.6%増) 日帰り客数 1,448,500 人(同15.6%増)</td></tr><tr><td>芦原温泉駅乗車人数(R6)</td><td>1,735 人 うち、北陸新幹線 581人/日 ハピラインふくい 1,154 人/日</td></tr><tr><td>芦原温泉駅～あわら温泉</td><td>4Km(バス 16 分)</td></tr></table> ※芦原温泉は、2025 年度「日本の温泉100選」で7 位 ※様々な収穫体験や味覚を味わうことができる(いちご狩り・ぶどう狩りなど) 1.事業実施計画について ①駅前周辺整備の計画年数と総事業費の内訳について ○完了までの歩み <table><tr><td>平成 16 年度 ～17 年度</td><td>芦原温泉駅周辺基本計画書(H18.3)</td></tr><tr><td>平成 28 年度</td><td>あわらの未来づくりアンケートの実施(H28.7～8) 市民ワークショップの開催(H28.8) 芦原温泉駅周辺将来デザイン市民投票(H28.11) 芦原温泉駅周辺基本計画書の改訂(H29.3)</td></tr></table>			人口(R8.4.1 現在)	25,608 人	観光入込客数(R6)	2,129,600 人(対前年増減率 14.0%増) うち、宿泊客数 681,100 人(同10.6%増) 日帰り客数 1,448,500 人(同15.6%増)	芦原温泉駅乗車人数(R6)	1,735 人 うち、北陸新幹線 581人/日 ハピラインふくい 1,154 人/日	芦原温泉駅～あわら温泉	4Km(バス 16 分)	平成 16 年度 ～17 年度	芦原温泉駅周辺基本計画書(H18.3)	平成 28 年度	あわらの未来づくりアンケートの実施(H28.7～8) 市民ワークショップの開催(H28.8) 芦原温泉駅周辺将来デザイン市民投票(H28.11) 芦原温泉駅周辺基本計画書の改訂(H29.3)
人口(R8.4.1 現在)	25,608 人														
観光入込客数(R6)	2,129,600 人(対前年増減率 14.0%増) うち、宿泊客数 681,100 人(同10.6%増) 日帰り客数 1,448,500 人(同15.6%増)														
芦原温泉駅乗車人数(R6)	1,735 人 うち、北陸新幹線 581人/日 ハピラインふくい 1,154 人/日														
芦原温泉駅～あわら温泉	4Km(バス 16 分)														
平成 16 年度 ～17 年度	芦原温泉駅周辺基本計画書(H18.3)														
平成 28 年度	あわらの未来づくりアンケートの実施(H28.7～8) 市民ワークショップの開催(H28.8) 芦原温泉駅周辺将来デザイン市民投票(H28.11) 芦原温泉駅周辺基本計画書の改訂(H29.3)														

平成 29 年度	芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会設立 (H29.5) 芦原温泉駅周辺まちづくりプラン素案作成 (H29.9) 市民ワークショップの開催 (H29.9)
平成 30 年度	芦原温泉駅周辺まちづくりプラン策定 (H30.7)

※ 平成 19 年度から部分的に整備開始 (道路等)

平成 30 年度から実施設計、用地買収、工事など開始

令和 5 年度整備完了

※ 芦原温泉駅周辺将来デザイン市民投票

全国的に著名な 3 組のデザイナーに市民の声を反映した将来デザインを描いてもらい、公開プレゼンテーションにより市民投票で決定。

来場者: 約 400 名 (小学生～高齢者、市外者)



○賑わいづくりの創出に向けた取り組み

- ・市民団体との繋がりをもって、継続的にまちづくり (賑わいづくり) を考える。
- ・空き家・空き店舗の解消に向けた補助金などの創設。
- ・まちなかガイドの育成・連携。
- ・次期計画の具体化 (河川を活用した空間)
- ・広域観光の強化 など

○計画年数と総事業費の内訳

計画年度	～H21	～H25	～H30	～R5	合計
事業費 (百万円)	467.9	208.0	1,345.3	4,880.7	6,901.9
進捗率 (%)	6.8	9.8	29.3	100.0	

※ 計画年数は 17 年間 (H19 年度～R5 年度)

② 国・県の補助率について

○ 国・県の補助率

国	社会資本整備総合交付金【都市再生整備事業】	40%
	社会資本整備総合交付金【道路事業】	55%
県	北陸新幹線三駅周辺整備推進事業	50%

③ 定住化促進対策について

○ 定住化促進にかかる補助金制度

多世代同居・近居促進事業補助金	基本額 70 万円 加算額 30 万円 (市内業者施工の場合)	あわら市内に多世代で同居・近居するための、新築住宅を建設または購入する
-----------------	---------------------------------------	-------------------------------------

		費用の支援。
多世代同居リフォーム支援事業補助金	補助率 1/2 補助上限額 60 万円	あわら市内に多世代で同居を開始するための、リフォーム費用の支援。
空き家取得等支援補助金	補助率 1/2 補助上限額 〈取得の場合〉 移住者・子育て世帯・ 新婚世帯等 100 万円 上記以外 50 万円 〈リフォームの場合〉 移住者・子育て世帯・ 新婚世帯等 100 万円 上記以外 50 万円	「空き家情報バンク」に登録のある物件を住居として購入またはリフォームする場合の、必要費用の支援。

2. 芦原温泉駅の利用状況について

①乗降客数の推移について

○芦原温泉駅乗車人数（年報）

年度	線名	普通	定期	合計
R3年度	北陸本線	147,430	298,929	446,359
R4年度	北陸本線	265,053	306,572	571,625
R5年度	北陸本線・北陸新幹線	263,579	269,069	532,648
	ハピラインふくい	9,213	14,179	23,392
	R5年度計	272,792	283,248	556,040
R6年度	北陸新幹線	182,323	29,842	212,165
	ハピラインふくい	141,911	275,405	417,316
	R6 年度計	324,234	305,247	629,481

※R5 年度の「ハピラインふくい」の集計期間は、2024. 3/16～3/31と短い。

②駅前整備前後の温泉利用客数の推移について

○芦原温泉宿泊者の推移（令和 6 年あわら市観光白書）

- ・令和 2 年から 4 年までは、コロナ下であったので宿泊者数は減少したが、新幹線開業後には戻りつつある。
- ・北陸新幹線が福井県内に延伸したことにより、関東地方からの利便性が向上し、関東地方からの宿泊数は令和 5 年度比83%の増加となった。県外では関西地方に次いで多い。

③駅からの公共交通について

○公共交通

●ハピラインふくい

令和 6 年 3 月 16 日の北陸新幹線福井・敦賀開業に伴い、JR 西日本から引き継いだ北陸本線。運行を担う福井県や沿線自治体が出資する第三セクターの

鉄道会社。

●京福バス（路線バス・乗り合いタクシー）4 路線

国庫補助路線 2 路線（東尋坊線、芦原丸岡永平寺線）

市単補助路線 2 路線（金津本荘線、長居線）

福井県の主要観光地である東尋坊と永平寺への路線バスが運行されている。

●あわら市乗り合いタクシー（市民向け）

停留所から停留所を予約制で運行するデマンドタクシー。

市内の交通空白地を無くすように、全区域 337 か所停留所を設置しており、市内隅々までの移動が可能。

高齢者や車を使わない方の通院・買い物など、日常の移動手段として低料金で利用できる。

●あわらぐるっとタクシー（観光客向け）

市内に点在する観光地（登録スポット 29 件）への交通手段としての定額タクシー。

毎日運行（12 月 29 日～1 月 3 日を除く）。9 時～17 時まで利用可能。

利用料金は、チケット購入がスマホからの事前購入の場合は 500 円、タクシー車内の場合は 600 円。

特徴としては、駅待ちタクシーにそのまま乗車し、タクシーの車内でも清算できる。

※総合配車センターを設置して、乗車客に配慮している。

●あわらぐるっとレンタル

芦原温泉駅を含む市内 4 か所で行われている電動自転車などのレンタルサイクル。

利用可能期間は、4 月から 11 月、3 月。9 時から 17 時まで。

利用料金は、時間貸しは 300 円と 500 円、1 日貸しは 1,000 円と 2,000 円。

ワンウェイサービス（乗り捨て制度）あり。

ご自身のペースであわら市の自然や街並みを身近に感じながら移動できる。

④駅利用者の利用目的について

・観光：福井県北部の玄関口として、あわら温泉の宿泊客や観光客が利用。

・日常：県内外への移動拠点として、近隣市への通勤・通学、出張や規制に利用。

⑤パーク＆ライドの現状について

○駐車場

西口立体駐車場	時間貸	区画数 （自動車 300 台、バイク 12 台）
西口交通広場駐車場	時間貸	区画数 10 台
東口交通広場駐車場	時間貸	区画数 12 台
東口駐車場	月極・時間貸併用	区画数 149 台
東口月極駐車場	月極	区画数 22 台

○駐輪場

西口駐輪場	無料	区画数 110 台
東口高架下駐輪場	無料	区画数 56 台
新富駐輪場	無料	区画数 70 台

※自動車や自転車から公共交通へスムーズに乗り換えられる環境に配慮し、駅は日常に使いやすい交通拠点となっている。



3.駅前の現状について

①駅前商店街の空き店舗等の状況について

○芦原温泉駅周辺の状況と課題

- ・店舗兼住宅が多く、店舗部分のみ貸すことへの抵抗感、住宅と店舗を分離するための改修費用の負担があり、どの物件が利用可能なのかわかりにくいといった課題がある。

○対策

- ・「あわら市空き店舗情報バンク」への空き店舗情報を募集し、HP や窓口で情報発信している（市は交渉や契約には関与していない）。
- ・商業エリア空き店舗・空き家改修事業補助金の創設（令和2年度より）。

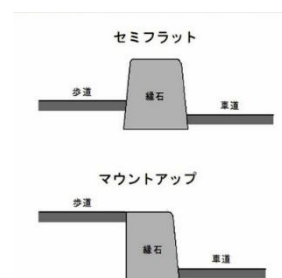
○商業エリア空き店舗・空き家改修事業補助金

内容	店舗兼住宅の空き店舗や空き家等を、店舗として活用しやすくするための改修費の一部を補助。
補助率・限度額	補助率 1/2 補助限度額 500 万円

※実績 3 件（洋菓子店、飲食店、ほか）

②バリアフリー化について

- ・駅前道路の歩道におけるセミフラット化（マウントアップからの改良）。
- ・線路を挟んでの駅へのエレベーターの設置（東口と西口に1台ずつ）。



4.駅を軸とした観光について

①歩きたくなる街の整備について

- ・歩きたくなる拠点と周遊軸を整備して、駅周辺の活力あるまちづくりを図る。
- ・今年度は川沿いにある公園を整備している。

○JR 芦原温泉駅周辺地区まちなかウォーカブル推進事業

事業概要	JR 芦原温泉駅周辺地区において、竹田川、都市公園及び市道の既存資源を活かし、地域住民から来訪者まで、誰もが日常的に集い、周遊したくなる魅力的な拠点を整備する事業。
------	--

	面積	30.3ha(滞在快適性等向上区域 約12.8ha)						
	交付期間	令和6年度～10年度						
	事業費	全体事業費 188百万円						
		交付対象事業費 188百万円(国費:94百万円) 国費率 50%						
②観光地と駅を結ぶ観光施策について								
・パンフレットによるPR。								
・「あわらぐるっとタクシー」と「あわらぐるっとレンタル」及び、「あわら恐竜号」の利用を促進。								
●あわら恐竜号								
芦原温泉(芦原温泉駅経由)と福井県立恐竜博物館を直通で結ぶバス。								
運行日:金・土・日・祝日及び繁忙期								
一日2往復。料金は、大人2,800円、小学生1,400円。								
○利用実績								
<table><tr><td>あわらぐるっとタクシー</td><td>4,507件(R7年度)</td></tr><tr><td>あわらぐるっとレンタル</td><td>325件(R7年度)</td></tr><tr><td>あわら恐竜号</td><td>4,978人(R7年度:172日運行)</td></tr></table>			あわらぐるっとタクシー	4,507件(R7年度)	あわらぐるっとレンタル	325件(R7年度)	あわら恐竜号	4,978人(R7年度:172日運行)
あわらぐるっとタクシー	4,507件(R7年度)							
あわらぐるっとレンタル	325件(R7年度)							
あわら恐竜号	4,978人(R7年度:172日運行)							
5.地域住民の反応について								
①駅利用者の反応と今後の課題、地域住民の声について								
・市の目標を掲げ、市民アンケートを毎年度実施している。								
目標:「暮らしやすく、幸せを実感できるまち」								
・市民アンケート実施内容								
無作為に抽出した市民1000人を対象に、平成23年度から実施している。								
※設問は、毎年固定した内容としている。								
※アンケート結果は、各種事業の評価として利用している。								
主な質疑応答	質)「ハピラインふくい」の乗車人数がR5年度からR6年度にかけて急激に増加しているのは。							
	答)R5年度は集計期間が2週間程だけだったので比較はしづらい。							
	質)空き店舗の利用に際して、市は関与しているのか。							
	答)芦原温泉駅前周辺の商店街における空き店舗については、あわら市が主体となり対応を行っている。具体的には、市の「空き店舗情報バンク」において、市内の空き店舗情報を取りまとめ、出店を希望される方へ向けてホームページで情報提供を行い、物件のマッチング支援を行っている。そのため、基本的には不動産業者を介さず、市が中心となってマッチングを行っている点が特徴。また、市では空き店舗等を活用して起業する方へ向けた補助金も設けており、出店にあたっての支援も行っている。							
	質)「ハピラインふくい」の乗降客数は、北陸新幹線の開業で増加しているのか。							
	答)R4年度の北陸本線の乗車人数26万人とR6年度の年度計32万人を比較すると単独では比較しにくいが増えていると思われる。							
	質)アフレア(駅前の交流・観光・地域活動の拠点施設)整備の予算配分は。							

	答) 市で整備している。財源は国庫補助や県の補助を入れている。立地適正化計画策定により補助率は 50%に上がるので、市の負担は総額の 1/4。予算総額は 14 億円程。 質) 駅の近くや駅前には駐車場が必要だが、芦原温泉駅前に無料のパークアンドライドを設けなかった理由は。 答) 整備前も市営の駐車場はすべて有料だったことや、利用客も増加すると思われるので、あえて無料とはしなかった。 質) 月極駐車場など、現在の駐車場の配置とした理由は。 答) 整備前も東口に月極があり、以前よりすみ分けしていたので、そのままの流れで整備。現在は民間の駐車場も増えてきている。 質) 現実に即さない要望への対応は。 答) デザイナーにデザインを描いてもらい、ワークショップなどで意見を吸い上げ、整備の方向性を決めて行った。 質) 構想決定までの話し合いは。 答) 駅周辺の地元の方や商工会青年部などの構成によるワークショップや賑わい創出協議会での話し合いにより、今の芦原温泉駅の構成となった。周辺の空き店舗の整備は課題。 質) 駅前の整備について、どんなことが人口減少の歯止め効果などにつながるものと考えているのか。 答) ビジネスホテルなどを誘致してきたが、商業施設や気軽に立ち寄れる喫茶店などの誘致も進めていきたい。商圈的に希望が叶わないこともある。 質) アフレアの施設で行われているイベント数は。 答) 月に 1~2 回程度。子供向けや農産物の紹介、スケボーやジャズのイベントもあり。施設は 8 時ごろまで開放している。
--	--

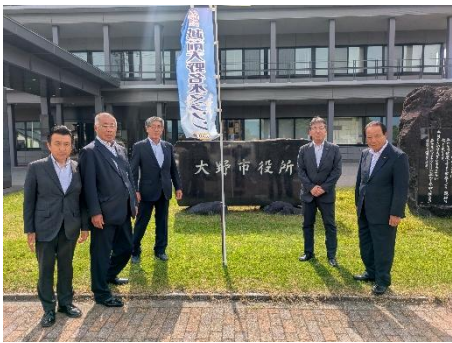
市への提言
または要望

芦原温泉駅では、駅前広場・駐車場・交流拠点施設・道路を一体的に整備し、利用者動線を明確にしています。本市が進める新駅構想にこの事例を生かすためにも、駅前空間のデザイン、交通結節点としての設計、賑わい創出の仕組み、そして本市の将来像との整合性を総合的に検討することが必要です。

まず、駅前空間の用途分担をどのように最適化するかが重要と考えます。送迎・駐車・公共交通・歩行者の動線を整理し、在来線・バス・自家用車・自転車の乗り換え動線や、渋滞を生まない道路配置を検討することが求められています。また、料金の有無にかかわらず、定住促進や利用促進の観点からも、駐車場の確保と用途に応じた配置設計が不可欠です。ただし、駅前の賑わい創出に配慮した計画とすることも重要ですので、十分な検討を進めて頂きたいと思います。さらに、商業施設など、賑わい創出のための民間投資を誘導していく取り組みも並行して進める必要性も感じます。

芦原温泉駅の事例を通じ、本市の新駅整備が市全体の都市構造にどのように貢献するのか、また人口減少時代において持続可能な投資となるのかを明確にすることの重要性を改めて認識しました。より良い駅前空間のデザインを検討し、新駅構想を進めて頂きますようお願い致します。



視察内容【2日目】	
視察自治体	福井県大野市
視察項目	有害鳥獣対策について
概 要	捕獲後の処理について
説明内容	視察先の福井県大野市は岐阜県に隣接する山深い盆地にあり全体の 90%が山林ということで、有害鳥獣が多く生息する環境にあり、当然のこととして捕獲体制や処理について先進地であり、具体的な施策について研修を行ってきました。
主な質疑応答	1.有害鳥獣対策について 被害状況と対策の実績について 鳥獣の出没抑制策について 河川の整備について ゾーニング管理について 2.捕獲の担い手について 捕獲員の現状と担い手不足対策について 3.鳥獣の人的被害について 被害状況について 登下校の安全対策について 4.捕獲後の処理について 処理の現状について 有害鳥獣分解処理装置の概要と設置費用について 処理装置のランニングコストについて ジビエ等の活用計画について 処理後の対応について
	 

市への提言
または要望

全体の感想として山間地域が多すぎて当市で参考とする施策は多くはありませんでした。

担い手の現状・確保についても地域と自然が共存していると感じました。農業被害も米作が主で、果樹や野菜の生産が少なく被害額は軽微です。

ただし、山深い地域であるので鳥獣の生息数は相当数に上り、捕獲した後処理について参考となる施設の設置・運用がなされています。

大野市では、平成29年1月よりNEXCO 中日本の協力の下、おがくずに含まれる微生物の力を利用して有害鳥獣個体を分解処理する施設運用の実証実験を行い、一定の効果を確認し、平成30年4月より有害鳥獣分解処理施設の運用を行っています。

事業内容として、処理計画頭数 400 頭/年（シカ270頭・イノシシ130頭）を
分解処理装置2台・粉骨砕装置1台・建屋は森林組合の空き倉庫
事業費約5300万円（国庫補助 55%）

処理装置の運営費用 178万/年（電気代82万・倉庫使用料28万・保守点検68万他）

これを考えると当市でも検討する価値はあると思われます。



視察内容【3日目】	
視察自治体	石川県野々市市
視察項目	・野々市ブランド認定制度について    野々市市議会 議長 安原様 異委員長の挨拶 地域振興課の説明員
概 要	野々市市は、石川県のほぼ中央に位置するコンパクトな街で、山・海・坂のない全くの平坦地です。市全体が手取川扇状地の平坦地に位置します。野々市市は、北東部を金沢市と、南西部を白山市にそれぞれ接しています。市の総面積は 13.56 ㎢で東西に 4.5 ㎞、南北 6.7 ㎞と小さい面積に約 54,000 人が暮らす市です。 2011 年に人口が 5 万人を超えたため野々市市が単独で市政施行しました。金沢駅まで電車で 7 分の距離にあり、県内では大型小売店施設が集積するなど利便性が高く、金沢のベッタタウンとして若いファミリー世代を中心に人口の増加基調が続く市です。 4 年生の大学も市内に 2 つあり、金沢工業大学と金沢県立大学の影響で平均年齢も 41.4 歳と若く活気の溢れる街であります。 市の花として、昭和 49 年 6 月 19 日に椿(ツバキ)が市花木に選定されました。野々市市には昔から、枝ぶりの立派な椿が多く育っていました。また「野々市」という、白に薄い紅をさしたような美しい品種もあります。 平成 16 年 12 月、新しい野々市町役場と情報交流館カメリアが竣工しました。これは、住民同士のコミュニケーションをより生み出せるように、地域のふれあいを大切に考えて造られました。また、平成 23 年 11 月の市制施行と同時に新市役所庁舎となりました。 庁舎は、行政・議会・住民がそれぞれ向き合うことをイメージしたコの字型となっています。さまざまな場面においてだれもが利用しやすいように工夫されており、新しい交流・新しいまちづくりを生み出す場所としての役割を果たしています。 野々市市のブランド認定制度の施策を学び安中市でもそれが生かせるようにしたいと思い、行政視察を実施しました。安中市もブランド商品を認定し販路拡大、売上向上、安中ブランドを全国に周知し本市の認知度向上、観光客数の増加等を目指すことが大切です。
説明内容	【野々市ブランド認定制度について】 ◇野々市市の概要について 1. 沿革 野々市市には古くは室町時代に加賀の守護であった富樫氏の守護所が所在していた地域でした。石川県と言えば金沢加賀 100 万石の前田利家氏が有名ですが、室町時代には富樫氏が加賀の守護としてこれらの地域を現在の野々市市から納めていました。歌舞伎の演目『勧進帳』に登場する人物が富樫氏です。 2. 地勢 野々市市は手取川扇状地に位置し、沖積世地質で地盤が固い場所で、令和 6 年の能登半島地震の時も震度4にとどまり被害も少なかったところです。地下水も豊富で水が美

美味しいと言われています。地盤が固く、海からも遠く津波の心配もなく、安全に暮らせる住みよい街です。

3. 人口・世帯数

全国的に人口が減少する中、野々市市は人口が増加しています。令和2年の国勢調査時は人口が57,238人だが令和7年の最新の国勢調査では人口は58,594人と1,356人、2.37%増加となりました。増加率は鈍化していますが増加基調が続いています。野々市市は海も山も大きな河川もないと言いましたが、坂もない平坦な市です。

土地区画整理で街づくりが進んでいます。現在も3つの地区で土地の区画整理事業が進行中。

○野々市市の課題について

・持ち家率が45.5%と賃貸マンションやアパートに住む方が過半数と50%を割り込んでいる。定住化・永住化が課題であり、子育て世帯も多いのだが、いざ家を建てるとなると、地価の安い白山市に行ってしまう等の事が課題である。

・野々市市には全国的にも有名な観光スポット、歴史的な資産、特産品がありません。そのような背景の中にあるので、市内外に野々市市を打ち出していく戦略として「野々市ブランド認定制度」を創設しはじめました。

◇野々市ブランドについて

1. 制度について

【概要・目的】

○地域内の特色ある産品の内、特に優れた産品を「野々市ブランド」として認定

目的は、野々市市と認定品の販売促進知名度・イメージの向上、地域産業の活性化をはかることを目的として平成30年度から始めた制度となります。

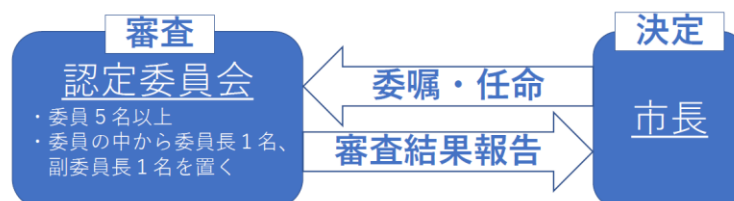
【認定対象】

○野々市市内で生産・製造・加工・販売を行っていること。

○農産物・工業製品・加工食品・工芸品・生活雑貨・IT製品等で特にジャンルは問わないため、幅広い産品を対象としています。

【運営体制】

○野々市ブランド認定要綱と野々市ブランド認定委員会設置要綱を定めており、それに基づき運営をしている。



市長が委嘱・任命した認定委員会で認定品を審査し、審査結果を市長に報告し、報告に基づき市長が認定の適否を決定することとなっている。

認定委員は現在5名体制で、野々市商工会等の市内団体から推薦された方や、専門的知識を有する個人の方をお願いしています。

○委員会の運営、認定品の募集や、取りまとめ、認定会、認定状交付式等の庶務は地域振興課が担当しています。

【制度開始の背景】

認定制度の立ち上げには平成23年の市政施行という大きな転換期以降、市民から野々市市のお土産って何を持っていけばいいとの声が多く聞かれるようになり、立ち上げの背景にあります。

市政施行となり郷土への関心や愛着が高まり、野々市市を代表し誇りをもって市民が進められるお土産が不足している課題が浮き彫りとして挙げられました。

市民が誇りをもって選べることができ、市民自身に長く愛される産品を育成していこうと考え、全国に自慢できるお土産を生み出したいとの思いが認定制度の背景にあります。

【制度のメリット】

野々市ブランド認定されると

事業者のメリット

- ①野々市ブランド認定証が交付される
- ②奨励金として、10万円が交付される
- ③認定マークの表示ができる
- ④イベント会場での販売やSNS発信等で市がPRを支援
- ⑤認定品の販路開拓費用について市が補助金を交付

市のメリット

- ①優れた産品の掘り起こし、新商品開発の促進
- ②「野々市」の名を冠した産品の流通
→市の知名度やイメージ向上
- ③地域産業の活性化
- ④行政と地域の生産者・事業者との間に協力関係が構築
→課題の把握や支援の展開がスムーズに

事業者と連携したイベント

お隣の白山市にあるイオンモール白山のイベントスペースで「ののいちブランドマルシェ」を開催。(2026年2月11日)

認定事業者が各ブースで商品の販売やPRを行ないました。

事業者からも事業者同士の交流や情報交換の機会にもなり有意義だったとの声がありました。



【認定品の実績について】

認定品数推移

認定年度	認定品数
H30	3品
R1	1品
R2	1品
R3	2品
R4	5品
R5	4品
R6	2品
R7	3品
合計	21品

販売額推移 ※認定の翌年度からの報告に基づく

年度	前年比増減率	算出対象認定品
R2	74%	H30年度認定 計3品
R3	117%	H30～R1年度認定 計4品
R4	110%	H30～R2年度認定 計5品
R5	103%	H30～R3年度認定 計7品
R6	104%	H30～R4年度認定 計12品
R7	93%	H30～R5年度認定 計16品

・認定制度も8年目を迎えました。これまで21品が認定となりました。

認定品も酒類、装飾品、衣料品、家具、農産物など多彩です。

認定品について⇒

2. 審査について

【認定基準】

- ①地域性(野々市らしさ)
- ②信頼性・安全性
- ③独自性
- ④市場性・将来性

評価を点数化

認定基準点は60点を設定し

60点取れば野々市ブランド認定品になることができる。

キウイフルーツワイン
野々市農業協同組合

雪峰白山のふもとで野々市市で、新鮮な水に固まれ栽培された完熟キウイフルーツをふんだんに使用した、全国でも珍しいワイン。

- [キウイ・キウイ] [キウイ・グレープ]
- 1,760円/内容量720ml
- 1,210円/内容量375ml
- 野々市市中央1-50
- TEL 076-248-9954

チャンピオンカレー
株式会社チャンピオンカレー

ドロップと濃厚なルーにうまみが凝縮したカレーは、一度食べたら忘れられない味です。サクサクのカツをトッピングしたカツカレーはほとんどの来店者が注文する看板メニュー。野々市市に本店があります。

- カツカレー: 1,100円
- チャンピオンカレー: 820円
- チルド、レトルトも各種販売
- 野々市市高橋町20-17
- TEL 076-248-9558

日本酒 握々 純米酒
中村酒造株式会社

北国街道沿いで酒造業を営んでいた「喜多家」で、昭和50年頃まで醸造されていた日本酒「握々」を産学官共同で復刻しました。多くの方に親しんで頂くために、当時の味を再現しつつも現代の嗜好に合うように仕上げました。

- 2,860円/内容量1,800ml 化粧箱別売165円
- 1,430円/内容量720ml 化粧箱別売110円
- 野々市市清金2-1
- (本社: 金沢市東土郷3-2-15)
- TEL 076-248-2435

つばきやの学習机
つばきや

世界三大銘木のひとつ「マホガニー」を材料にし、野々市で研削・組み立て・塗装をして製造されている学習机です。シンプルなデザインは子供の頃だけでなく、大人になっても使えるパーソナルデスクです。

- W110×D60×H73cm/49,500円
- W80×D60×H73cm/45,650円
- 野々市市本町2-23-6
- TEL 090-8912-2898

【審査方法】

○認定委員会を開催し審査方法は

- ①書類審査
- ②プレゼンテーション審査

二つの野々市ブランド認定品を決定します。

【更新審査と認定取り消しについて】

○更新審査について

・認定の有効期間は3年となります。

・認定事業者からの更新申請

→認定委員会で更新審査

○認定取り消しについて

・認定基準に適合しなくなったとき。

・認定品の生産、製造、加工又は販売を廃止し、又は1年以上中止したとき

・辞退届出書の提出を受けたとき



令和7年度野々市ブランド認定証交付式

実績報告書は毎年、提出してもらっているのですが、その実績も認定審査に入ります。

また、認定期間は3年ですが、認定基準に適合しなければ3年に満たなくても認定取り消しとなります。

3. 情報発信について

【令和7年度PR実績】

- イベント開催 9回
- 出店・展示等 11回
- 広報・新聞・雑誌等掲載 16回
- SNS等の発信 21回

その他、通年で市HPの掲載、市作成の認定品リーフレット・ポスターの掲示、観光物産協会の物販での取り扱い等を実施。

【イベント開催について】



R7.7.4 梅シュワナイト☆
梅狸々で乾杯！のいちビアガーデン
（にぎわいの里のいちカミーン）



左側は梅シュワナイトの開催風景です。野々市生まれの野々市ブランド認定品である日本酒狸々で仕込んだ梅狸々の発売を記念してイベントが開催されました。800人が参加し、お酒と音楽に酔いしれていました。

右側はIR野々市駅前で毎年開催されている狸々酒場です。

【県外での物販イベントの様子】

R7.8.27 **大阪・関西万博** （大阪府万博会場内）



R7.11.28 **いしかわ県人祭in大阪** （リーガロイヤルホテル大阪）



	【販路開拓支援事業補助金について】 認定事業者が意欲的に取り組む認定品の販路開拓の活動で、野々市ブランドのブランド力及び認知度の向上につながる事業について、市が費用を補助する事業を実施。 ○補助金の額 補助率2／3 上限額20万円 ※認定品1品につき3年度に1回まで補助 ○補助対象経費について 備品購入費、広報費、旅費、開発費、委託費、展示会等出展費（小間料、小間装飾料、出品物輸送料）
質疑応答	質）安中市では、豊かな地域資源を生かした農産物等の地域ブランドの確立を目的に、協議会を設置しました。野々市市では酒や加工食品、お菓子、工芸品、机等の家具、など色々な製品のブランド化を図っているが、農産物のブランド認定はどうか。また、安中市はウメの栽培が盛んであるが、野々市市ではウメの特産品等はあるのか。 答）農産物のブランド化については農業者数も多くないため、あまり進んでいない状況です。令和 7 年度に石川県の伝統食「かぶら寿し」に欠かせない「野々市かぶら」を認定しました。60 年の栽培の歴史があり、野々市市の水はけの良い水田で生産され、漬物業者で「かぶら寿し」に加工され販売されている。 野々市市では梅生産は少ない状況です。以前はキウイフルーツの栽培が盛んでしたが現在は生産者がいない状況です。また、昭和 50 年頃まで醸造されていた日本酒「狸々」（しょうじょう）を産官学共同で復刻した結果、人気の野々市ブランド認定品となりました。 質）野々市ブランド認定品の販路開拓支援事業として、補助金が上限 20 万円の制度を始めたが、実績はどうか。 答）令和 7 年度は 7 件の事業者が認定品での販路開拓事業に使いました。認定品 1 品につき 3 年に 1 回まで補助金が支給されます。 質）事業者にとって販売をどのように進めるのか、課題もあると思うがどうか。 答）イベント等、色々な場面を使って野々市ブランドの PR を進め、販路等の拡大を進めていきたい。 質）認定制度に出品するのに思い切りがつかない事業者もいると思うが、後押しはどうか。 答）商工会で新商品の開発支援や事業者からの相談事業などに取り組んでいる。 質）認定されるには審査があり書類審査、プレゼンテーション審査があり点数を 60 点以上獲得しなければならないが認定率はどうか。 答）令和 7 年度は 9 品審査にきたが、認定商品は 3 品でした。年により認定率は様々で、令和 5 年度は 5 品審査され 4 品認定されました。認定数の決まりはないので年によってばらつきます。 質）認定された後の有効期間を 3 年としているが理由はあるのか。 答）一度認定されれば永遠に認定する制度としている市町村もあるが、本市は定期的に相応しいか確認することも大切であると考え 3 年としています。 質）農産物のブランド化は難しい課題である。ブランド認定する審査会の中に農業者や JA 関係者は入っているのか。

	答) JAの方が認定委員に入っています。農業者からの目線も取り入れています。 質) 乳製品でのブランド化はないのか。 答) 野々市市は酪農家がないので乳製品は入っていません。 質) ブランド取り消しはあったのか。 答) 今のところありませんが、実績報告書類等の提出が遅れたり、イエローカードの事業者はあります。 質) 家具も認定商品になっているが、野々市で作っているのか。 答) 世界三大銘木である「マホガニー」を材料に野々市で研磨や組み立て、塗装をしています。人気があり一生ものの家具として有名です。
市への提言 または要望	令和8年3月2日(月)、安中市では安中ブランド推進協議会を発足しました。この協議会は安中市の豊かな地域資源を生かした地域ブランドを確立し、農産物等の販路拡大や生産者の経営基盤の安定化を目指し、市の産業振興および地域の活性化を目的としています。安中市内の農業者の代表であるJA(碓氷安中農業協同組合)や県関係機関(西部農業事務所)、有識者等の委員での体制を作りました。 本市も地域ブランドを確立し、生産者の皆さまの更なる経営基盤の向上や市民が誇りを持てる製品開発を進め、安中市に行けば「他にないオンリーワンの商品」が購入できるようにすることが必要であると考えます。 現在も市長はトップセールスを積極的に進め、安中市、市観光機構、秋間梅林観光協会と毎年、上野駅構内で「観光キャラバン」を行ない、本市の観光PRを進めています。安中市の銘菓いそべせんべいを配布していると聞きました。今後も安中市ならではの商品を開発し県外に安中市を知ってもらう施策が必要です。 今回視察した野々市市でのブランド認定制度の立ち上げは、平成23年の野々市の市政施行という大きな転換期以降、市民から野々市市のお土産って何を持っていけばいいとの声が認定制度の立ち上げの背景にあります。 市政施行で郷土への関心や愛着が高まり、野々市を代表し誇りをもって市民が進められるお土産不足が課題とし挙げられました。 市民が誇りをもって選べ市民自身に長く愛される産品を育成し全国に自慢できるお土産を生み出したいとの思いが認定制度の背景にあります。 野々市市では農産品に限らず、色々なお菓子や加工食品、カレー、お酒、工芸品(家具も含む)認定商品が多数あります。本市も合併20年の節目の年なので、農産物に限らず、安中市のブランドとして色々な製品を認定し、市内だけでなく市外へも販売を広げ、事業者や生産者の売上の増加、利益拡大を進めることも大切です。 安中市から県内は基より県外へ売り込み、全国へ展開するように市も主導し認定商品を作ることが大切です。また、新商品とともに現在、市内で販売しているそれぞれの店舗での商品も安中ブランドとして周知し、新商品とともに定期的に市内店舗へ訪問し、情報交換をこれまで以上に勧め、現有事業者の声も聞き現有商品の販路も大きく拡大させることも大切です。 また、安中市ではCO2の吸収効果の高い早世桐植林への補助を進めていますので、早世桐の成木を加工し新たな商品として売り出す施策や耕作放棄地へオリーブ栽培推進事業も進めていますので、オリーブオイルを新商品として販売することも必要です。

安中ブランドの認知度を向上させ、「温泉マーク発祥の地」「遠足侍マラソンはマラソン発祥の地」とともに、横川に予定しているオンリーワンの道の駅での販売も視野に安中認定商品を作ることを目指す施策を進めてください。

今後も第3次安中市総合計画の目指す目標、「住んで良かった、豊かで魅力ある元気な新しいあんなか～さらに、光り輝くまちへ～」を実現するため、市内事業者が元気になる取り組みが求められています。選ばれるあんなかを目指しましょう。



野々市市公式キャラクター「のっティ」と共に



野々市市議会議場にて